

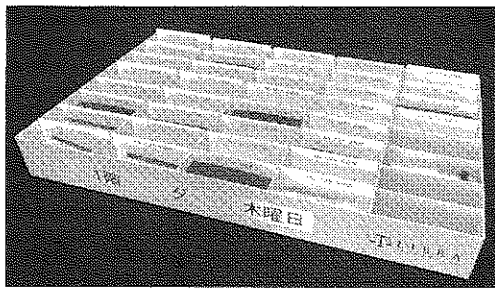
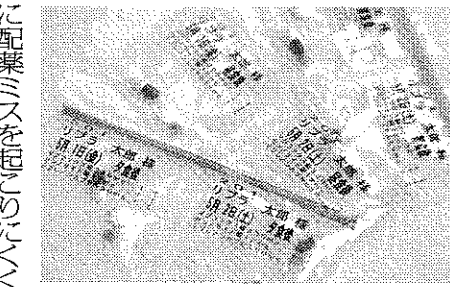
薬剤管理・配薬負担軽減

運用定着もサポート

調剤薬局「リブラ薬局」を東京・神奈川で5店舗運営するリブラ（神奈川県鎌倉市）は、高齢者施設内での薬剤管理をシステム化し、施設の労力軽減、配薬ミスの削減を支援している。

同社が高齢者施設に提案している薬剤管理システム「ラーター」は、配薬の時に、薬は服用する時間ごとに、トレーと同じ色のラインが分けたトレーを活用する。トレーは入居者ごとに「服用の日」にマス分けされており、誰がどの薬を服用するのかが一目でわかるようになってくる。薬局が個人ごとにすべての薬をセットするた

4 印字して1回ごと一包化



4 薬のセットはすべて薬局で行う

また塗り薬などの外用薬・点眼薬は、シールにより内服薬同様に部屋番号や氏名、使用箇所や回数を表示している。

に配薬ミスを起こりにくくしている。一包化できない血圧の薬剤や睡眠導入剤などは分包する。薬を中止している入居者がいる場合は、トレーにチップを埋めそれが確認できるようになってくる。

施設内で使用される内服薬・外用薬などすべての薬剤はエクセルによる管理簿に記録し、施設と薬局で共有。処方薬の日数・残数管理も、医師の往診日など併せて行うため、薬が足りなくなったり残薬が溜まっ

てしまうなどといったことを防止できる。

薬剤のセッティング、医薬品の整理整頓、残薬管理までをすべて薬局側が手掛けることで、施設職員の配薬作業に要する時間を大幅に削減する。1回の服薬に看護師2名で40分かけていた施設もあったが、同社が介入することでその時間がほとんどなくなったという事例もあるという。

すでに大手高齢者施設でもラーターを使った薬剤管理の運用を始めているほか、他法人の薬局がラーターを活用しているケースもあるのだという。

「小規模な薬局は訪問を手掛けたくてもノウハウがないため諦めているケースも多い」（的場洋一郎社長）ことから、同社では薬局に対してラーターを使った運営サポートを行っている。

